となん

【学校教育目標】
［知］自ら学ぶ意欲を持つ生徒
［徳］豊かな心を持つ生徒
［体］健康でねばり強い生徒

発行者：校長　崎山（さきやま）　用彰（ようしょう）

【学校経営目標】
【目指す生徒像】
よりよい未来の創造と自己実現を目指し学び活動する生徒の育成

☆下中だより「となん」は、学校ＨＰから閲覧可能→→

５／２７（火）沖縄タイムスの記事「論壇」から

沖縄県の学力 強み生かし子の可能性に

論壇

沖縄県の「学力」 強み生かし子の可能性に

東郷健太郎

2020年の大学入試改革以降、大学入試の推薦枠が拡大し「総合型選抜入試」が全国的に増加している。これは、学力試験の成績だけではなく、大学で学びたいことや将来のビジョン、課外活動の成果などが多角的に評価される入試制度である。この変化は、沖縄の高校生たちにとって大きなチャンスとなっている。

一方、沖縄県の学力は全国最下位圏にあるといわれ続けている。しかし、その「学力」とは一体何を指しているのだろうか。私は長年、総合型選抜を通じて多くの沖縄の高校生と向き合ってきた。その中で、沖縄の高校生の持つ、偏差値やテストの点数だけでは測れない「社会を生き抜く力」があることを実感している。

沖縄の高校生には、他の地域にはない強みがある。例えば彼らの純粋さや、地域の文化・魅力を体感していること。そして社会課題を日常的に自分のこととしていることだ。沖縄は「社会課題の宝庫」ともいわれるが、その環境に生きること自体が、社会貢献意識を育む絶好の機会になっている。このような特性は、近年注目される探究学習やSEL（社会性と情動の学習）に最適な土壌となり得る。

実際、沖縄の高校生が総合型選抜を活用して「難関」と呼ばれる国公立、私立大学に合格する姿を見てきた。学力試験の成績だけでは難しくても、彼らは違う形で学びの可能性を広げ、全国の舞台へと飛び立っているのだ。

一方で「一般入試で国公立に行くことが正義」「推薦入試は逃げ」といった価値観を持つ大人もまだ多い。もちろん、学力の向上を目指し、努力することを否定したいわけではない。しかし、大学進学の選択肢が多様化する中で、学びの形を柔軟に捉え、それぞれの強みを生かした進学の道を応援することもまた、教育の役割ではないだろうか。

さらに、学びたいことを追求して進学した学生は、大学での成績も高くなるというデータがある。学ぶ意欲を持っている学生は、大学の授業についていけないどころか、積極的に参加し、学外での挑戦も行い、多角的な学びを得ている。これまで指導してきた生徒が「大学の授業についていけません」といった事例もない。それどころか、偏差値が高くなかった生徒でも、自らの興味を見つけた途端に、学問の吸収力や学習速度が飛躍的に向上する姿を何度も見てきた。

沖縄には、優れた環境と人材がある。それにもかかわらず「学力」の一側面だけを見て「沖縄は全国最下位」と語るのは、あまりに視野が狭いのではないか。これからは、沖縄の教育の価値を再定義し、地域全体で学びの可能性を広げていくことが求められる。沖縄の未来を担う子どもたちの可能性を、もっと大きく育てていきたい。

（那覇市、大学受験塾代表、28歳）

2025・5・27　沖縄タイムス

昨日の新聞（沖縄タイムス「論壇」）に、みだしの「沖縄県の学力 強み生かし子の可能性に」が掲載されていました。気になったので紹介します。

ぜひ保護者と一緒に一読して考えてみましょう。

沖縄県の子どもの学力については、依然として全国平均に追いついておらず、課題として挙げられています。しかし、同時に子どもの持つ強み「豊かな感性」「他者への共感力」「明るく前向きな気質」「地域社会との強い絆」などもあります。

記事は高校生視点でまとめられています。皆さんが高校生になるまでに、どんな「資質・能力」を身に付けるべきか、見通しを立ててみるのもいいかもしれませんね。

５／２３（金）生徒総会

総会宣言

先週行われた「生徒総会」では本年度の活動等について話し合いました。ここでは、「総会宣言」を紹介します。

私たち、下地中学校生徒会会員は、

「闘志躍動　～限界を超え、未来を駆ける下地中～」

のスローガンのもと、決めたことに対して責任を持って実行し、伝統ある下地中学校の生徒会をさらに発展させて行くことを宣言します。

【お知らせ】

◎５／３０（金）は、ゴミゼロの日です。本校でも市のイベントに合わせて通学路のゴミ拾いボランティアを行います。生徒の皆さんは当日の服装や、水筒等の準備を忘れずに……。